



第
87
号

発行日：2024年4月1日
 発行：特定非営利活動法人 おおつ環境フォーラム
 (大津市地球温暖化防止活動推進センター)
 住所：〒520-0047大津市浜大津四丁目1番1号明日都浜大津4階
 電話：077(526)7545
 フォーラムHP：https://eco-otsu.net
 Eメール(事務所)：forum@eco-otsu.net



<事務局長から> 万物が躍動する好季節となりました。2023年度事業は、皆様のご協力により無事終えることができました。大津市地球温暖化防止活動推進センター3期目最終年度となる2024年度のスタートにあたり、3月22日の理事会で確定した事業計画、活動予算等に基づき、皆さんと一丸となって環境保全に取り組んでいきたいと存じます。ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。
 会員数114名(2024年3月末現在)

トピックス

○ おおつ市民環境塾講座10「食品ロス問題をみんなで考えよう」を開催しました

1月20日、明日都浜大津のふれあいプラザにて、おおつ市民環境塾講座10「食品ロス問題をみんなで考えよう」を開催し、20人が参加されました。



講座は3部構成で、第1部は滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課資源循環推進係長の野村俊夫氏による講演です。食品ロスとは「食べられるのに廃棄された食品」のことで、日本全体では年間約523万トンもあり、国民一人ひとりが毎日茶碗1杯分を捨てていることとなります。約半分が家庭系の食品ロスです。滋賀県では「三方よし!!でフードエコ・プロジェクト」を推進し、三方よしフードエコ推奨店の登録、「ごみゼロチャレンジしが」による情報提供、フードドライブの推進に取り組んでいることが紹介されました。市民としては買い物や調理時に注意し、食品ロスを出さないようにしなければなりません。

第2部は、大津市社会福祉協議会地域福祉課長の森野道代氏から、生活困窮者と食品提供者をつなぐ共助ネットワーク；必要なものを必要な時に必要なだけ届けられるシステムの構築に努力していることが紹介されました。

第3部は、平和堂の山本真由紀氏と滝本和人氏から食品販売面の取り組みが紹介されました。2020年秋より商慣習を見直し、食品の3分の1ルールを一部2分の1ルールに変更、規格外の果物を使用した平和堂ブランドを作る、食品リサイクルにより「循環エコ野菜」を作る、フードドライブ活動に協力するなど食品ロスに関する取り組みが紹介されました。「必要量を発注する、適切に保存する、適量サイズで提供する、恵方巻は予約を取る」など廃棄の出ないような努力も紹介されました。

家庭系食品ロス削減のため「必要分だけ買う、無駄なく使う、残さず食べる」など出来ることから始めましょう。

○ おおつ市民環境塾講座11「湖沼の水環境を考える」を開催しました

2月11日、ふれあいプラザにて、おおつ市民環境塾講座11リモート講演会「湖沼の水環境を考える」を開催し、会場で19人、オンラインで16人が参加され、東京大学大学院新領域創成科学研究科教授山室真澄氏につくばのご自宅からオンラインでご講演いただきました。



1950年代半ばまでは水草(沈水植物)は農家に肥料として利用されてきました。除草剤を水田で使用するようになり肥料にするための水草が激減しましたが、同時に化学肥料を使用することになったことで、水草が消えたことは問題視されませんでした。水草の激減により、中海(島根県と鳥取県にまたがる汽水湖)では植物プランクトンが増加し二枚貝は増加しましたがエビ、カニ、一部の魚等は減りました。また、宍道湖(中海の上流側に隣接する汽水湖)では、1993年を境にウナギとワカサギの漁獲量が激減しました。これは様々な状況証拠からネオニコチノイド系殺虫剤がウナギやワカサギのエサを減らしたことが原因と結論付けられました。琵琶湖では水草の大量繁茂が問題になっていますが、除草剤があまり流れ込んでいないからとも言えるかもしれません。非常に高度で専門的な内容を分かり易く説明していただき、1950年代からの水環境の変移を知ることができました。有機汚濁負荷や湖底の酸欠など課題が多々ありますが、琵琶湖の豊かな生態系や身近な環境を守るために、何が環境を守ることになるかを含め自ら考え観察するなどし、できることから行動していこうと思わせる講座でした。

○ 2023年度も小冊子「CO₂排出ゼロへの挑戦」を継続

2021年度から継続発行している小冊子「CO₂排出ゼロへの挑戦」は、2023年度中にVol.5を発行し、Vol.6の編集を完了しました。Vol.5は「住宅の断熱性改善でエネルギーの無駄を排除」として住宅の断熱性と健康の関係や断熱性向上策などを採り上げました。Vol.6は「都市ガスのカーボンニュートラル化(メタネーション)」として排気ガス中のCO₂からメタンを合成し、都市ガスにリサイクルする技術の概要と事業化計画などを紹介しています。

イベントでの啓発活動や講座テキストとして活用していく予定です。



Vol.5とVol.6 各A4判4ページ

プロジェクト等からの活動報告・お知らせ

《ビオトーププロジェクト》

【春日山ビオトープ】

1月14日、池にはびこるショウブの地下茎を除去しました。とても寒い日で池は氷で覆われており、氷を割りながらの作業で、長靴を通して冷気が足を縮こませる中、地下茎のしぶとさに悪戦苦闘しました。3月10日、年間計画について話し合い、また池の護岸を補修しました。池の護岸はイノシシによる餌あさりや降雨による浸食で穴だらけとなっていました。また、1月に掘り残していたショウブの地下茎を取り除き、春のオタマジャクシイベントに備えて池底を安全にしました。



1/14 春日山

【北大路どろんこトープ】

12月10日、ビオトープへ流入する水路に枯れ枝や落ち葉が折重なっており、池の水位が下がっていました。そこで池の5mほど上流まで遡って、枝と落ち葉を除去しました。枝の長い物は約1.5mもあり、水路の暗渠部分に突き刺さって取り除くのに苦労しました。最終的に池の水位を5cmほど回復させることができました。2月18日、水場の整備作業を行いました。池にはアカ



2/18 北大路

ガエルの卵塊が6個あり、水路で産卵に備えてやって来たアカガエルのオスを見つけました。

《里山保全プロジェクト》

2月2日、2019年に春日山公園の棚田の自生地で採種しプランターへ地植えした中から良く育ったササユリの球根を選び、別のプランターに移植しました。

《エネルギープロジェクト》

1月27日、近江神宮近くの(社福)いしづみ会にて、ふれあいサロン大津宮の9人を対象に出前講座「地球と家計に優しいエコライフのすすめ」を実施しました。小冊子「家庭の省エネ簡易診断」や「エコライフデーチェックシート」を用いて、地球温暖化と家庭でできる省エネ策について解説しました。フリーディスカッションでは太陽光発電と蓄電池の導入や住宅断熱にまで話題が広がりました。



2月5日、6日に近松保育園、本願寺近松別院、大津市リサイクルセンター木戸の計3事業所で省エネ診断を実施し、その後報告会を行いました。

《自然家族事業実行チーム》

2月23日と3月9日に、「里の日」(5月18日開催)でサツマイモの苗を植える大將軍2丁目の畑の草取りをしました。4月中旬に耕して石灰や堆肥を入れる予定です。

■これからのフォーラム活動 (本文に記載の計画は省略)

プロジェクト等の名称	日時	場所・内容
プロジェクト		
ビオトープづくり	4月 14日(日) 9:00	北大路どろんこトープ//補修整備、草刈り
生ごみリサイクル	4月 19日(金) 9:00	市民活動センター//生ごみ堆肥化資材EMポカシづくり
里山保全	4月 13日(土) 9:00	春日山公園//例会
	4月 22日(月) 9:00	春日山公園//例会
	5月 11日(土) 9:00	春日山公園//例会
エネルギー	4月 2日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	4月 11日(木) 14:30	市民活動センター//出前講座「家庭の省エネ」
	5月 7日(火) 10:00	大津市センター//定例会議
	5月 7日(火) 14:00	大津市センター//エコ料理チーム会議
委員会・実行チーム		
おおつ市民環境塾実行チーム	5月 11日(土) 10:00	衣川湖岸緑地//講座1「春の自然観察会」
自然家族事業実行チーム	5月 18日(土) 10:00	大將軍2丁目畑//「里の日①」予備日5/19
全国ネット補助金事業実行チーム	5月 7日(火) 13:15	大津市センター//連絡調整会議

* 大津市センター；大津市地球温暖化防止活動推進センター (明日都浜大津4F)